



萩原利久  
河合優実 伊東 蒼 黒崎煌代  
安齋 肇 浅香航大 松本穂香 / 古田新太

監督・脚本：大九明子

原作：福徳秀介『今日の空が一番好き、とまだ言えない僕は』（小学館刊）

製作：藤原 真 吉澤啓介 永山雅也 古賀俊輔 松本光司 プロデュース：中村直史 古賀俊輔 プロデューサー：中澤晋弥 黒田優太 松浦ちひろ  
共同プロデューサー：馬場省吾 長坂洋子 撮影：中村夏実 照明：常谷良男 録音：小宮 元 編集：米田博之 美術：橋本泰至  
装飾：貴志 樹 VFXスーパーバイザー：田中貴志 音響効果：渋谷圭介 衣裳：吉本茉莉 ヘアメイク：遠山穂波  
音楽プロデューサー：田井モトヨシ DIカラスト：河原夏子 助監督：成瀬朋一 制作担当：大塚博之 ラインプロデューサー：梅本竜夫  
特別協力：関西大学 製作幹事：吉本興業 制作プロダクション：ザフル 配給：日活  
製作委員会：吉本興業 NTTドコモ・スタジオ&ライブ 日活 ザフル プロジェクトドーン  
©2025「今日の空が一番好き、とまだ言えない僕は」製作委員会

4.25

第37回 東京国際映画祭  
コンペティション部門  
公式出品作品

僕は  
She Taught Me  
Serendipity  
今日の空が  
一番好き、  
とまだ言えない

ずっと、なんてない。知ってたけど、知らなかった。

生きる痛みを知ったとき、本当の恋がはじまる。





萩原利久 × 河合優実 × 大九明子 × 福徳秀介

監督・脚本

原作

(ジャルジャル)

唯一無二のコント職人が小説家デビューを果たした珠玉の恋愛小説を実写化。映画史に残る新たな最高傑作が誕生。

ジャルジャル福徳秀介が小説家デビューを果たした珠玉の恋愛小説『今日の空が一番好き、とまだ言えない僕は』。監督を務めるのは映画『勝手にふるえてろ』(17)、『私をくいとめて』(20)、「家族だから愛したんじゃないくて、愛したのが家族だった」(NHK/23)など、数々の話題作を手がける大九明子。主人公の大学生・小西徹を萩原利久、小西が恋に落ちるヒロイン・桜田花を河合優実が演じる。さらに、伊東蒼、黒崎煌代ら今最も話題の俳優を迎え、大九監督の新境地にして最高傑作が完成した。

「私がいらないところで、私のことを思い出してほしかっただけ」

思いがけない出会いから始まった、最高純度のラブストーリー

思い描いていた大学生活とはほど遠い、牙えない毎日を送る小西。学内唯一の友人・山根や銭湯のバイト仲間・さっちゃんとは、他愛もないことでふざけあう日々。ある日の授業終わり、お団子頭の桜田の凜々しい姿に目を奪われた。思い切って声をかけると、拍子抜けするほど偶然が重なり急速に意気投合する。会話が尽きない中、「毎日楽しいって思いたい。今日の空が一番好き、って思いたい」と桜田が何気なく口にした言葉が胸に刺さる。その言葉は、奇しくも、半年前に亡くなった大好きな祖母の言葉と同じで、桜田と出会えた喜びにひとり震える。ようやく自分を取り巻く世界を少しだけ愛せそうになった矢先、運命を変える衝撃の出来事が二人を襲う――。



4.25

すべての人が、心を震わせ、生きることの尊さを噛みしめる――。



ムビチケカード[前売券]発売中!  
1,600円(税込) ※一部劇場を除く

